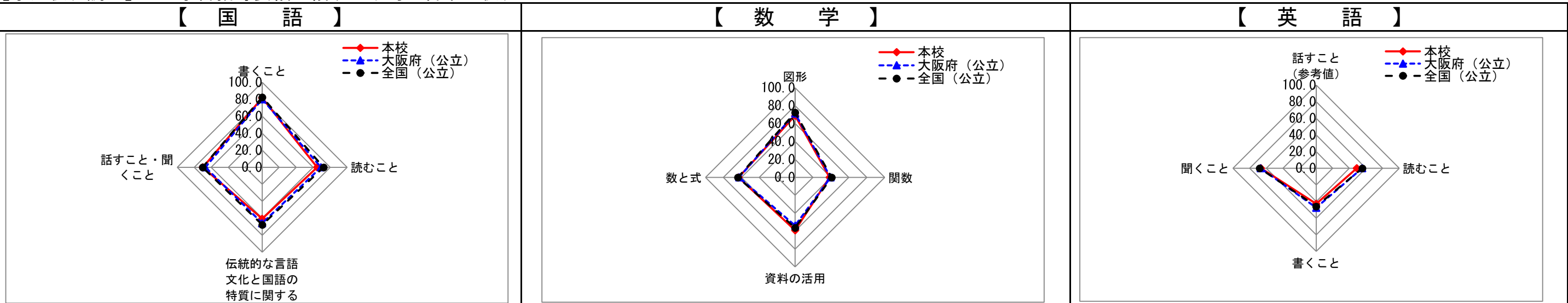


調査実施要領にありますように、本調査結果は、学力や学習状況の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面ではありますが、学校として以下の結果について真摯に受け止め、子どもたちの学力並びに学習意欲の向上に努めてまいります。保護者のみなさんのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

【学力状況調査】

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞

本校



全体的な状況

・「話す・聞く能力」についての問いでは、全国平均まであと0.3ポイントと迫った。また、「書く能力」では全国平均まで、あと0.9ポイントである。無回答率については、ほとんどの項目で、全国平均よりも低く、問題を解く意欲も高いことが読み取れる。

成果

・短歌に関しての知識や理解、読み取ったことから自分の考えを持つことができる。
・話し合いについての進め方や役割を理解し、自分の考えを持つことができる。
・論の展開を考えて適切な語句や文の使い方を理解している

課題

・文章の構成や展開、表現の仕方に着目して読み取る力が弱い
・文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える力が弱い。
・国語に関しての知識や理解、活用する力が弱い

課題解決に向けた取組み

・文章の構成や展開、表現などについて考え、意見を交流する時間を設け、一人一人の理解を深められる授業を展開する。
・普段の授業の中から意識的に、国語の専門的な知識に触れる機会を増やし、それを活用できる場面を設ける。

全体的な状況

・概ね全国平均と同等といえる結果であり、「資料の活用」の分野においては全国平均を上回る結果であった。その一方で、「図形」と「関数」分野において平均を下回る結果となった。無回答率に関しては、概ね全国平均より低いといえる。

成果

・「数学的な技能」の分野において全国平均を4ポイント上回る結果となり、毎時間の基礎基本の復習が定着している結果だといえる。

課題

・「関数」「図形」分野においての正答率が低い。
・応用力を問う問題の正解を導くためのアプローチの仕方に課題が見られる。

課題解決に向けた取組み

・現在実施している授業開始時の復習問題への取り組みを継続し、少人数授業による学習の定着をはかることで、全体的な学力の底上げを目指す。
・記述式問題をはじめとする応用問題に触れる機会を増やして論理的思考を養っていく。

全体的な状況

・音読練習を繰り返すことで読み方がわかり、リスニングの力がついてきている
・話すこと、読むことの正答率が低い。

成果

・授業中にペアでコミュニケーションをとることやリスニング練習を積み重ねることで聞くことに対して積極的に回答することができた。
・書くことに苦手意識はあるが、平均点より正答率が高いものもある。

課題

・参考値であるが話すことの正答率が低く、無回答も見られたため、テストの形式に慣れることも大切である。
・連語や単語力を身につけ、語彙力をあげることで正答率を上げていきたい。

課題解決に向けた取組み

・授業の初めに100語程度の長文の速読を行うことで、読むことのトレーニングをし、読む力をつける。
・授業では重要連語や単語を繰り返し音読練習し、家庭学習でも定着を図る。

【学習状況調査】

状況が良好な主な項目	本校	府	全国	課題を残した主な項目	本校	府	全国
難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか	79.8	69	70.3	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	43.3	33.8	33.6
日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますが	71.1	54.7	59.3	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	51.9	46.4	50.4
学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか	86.5	63	71.6	読書は好きだ	32.7	34	38.9

全体的な状況

・66項目の質問中、56項目で全国平均を上回る肯定的で前向きな回答となりました。各教科や行事の取組みにおいて積極的にチャレンジしていく姿勢がみられます。また、グローバルな視点を持ち地域や世界で活躍する人との出会いの中で、自分自身や地域・日本の良さなどを発信していく意識が生まれています。

成果

・お互いの意見を認め合う雰囲気の中で、失敗を恐れず難しいことにも積極的に挑戦できる姿勢が身についている。
・グローバルな視点が育ち、自分の地域や日本について外国の人にも知ってほしいという意識が生まれている。
・話し合い活動や相互評価を通して、互いの意見のよさを生かしながら問題解決ができるようになっている。

課題

・決まった時刻に就寝できない生徒が約半数おり、規則正しい生活習慣の確立が求められる。
・計画立案の習慣化が不十分であり、家庭学習の時間がなかなかとれていない。
・メディアの発達・普及を背景として、読書から離れている生徒がふえている。

課題解決に向けた取組み

・ご家庭での生活習慣について、お子様とのルールづくり、改善・実行をお願いいたします。
・定期テスト前にテスト計画表等を使い、ご家庭と連携しながら具体的かつ実現可能な計画を立案できるようにする。
・学校図書館支援員と連携し、読書活動の推進を図り「読み・調べる・感じる」ことの意義を生徒に伝える。

○保護者のみなさんへ(全体を通じて)

今回の学習状況調査の結果から、各教科や行事の取組みで話し合い活動が充実し、仲間の意見を受け入れながら課題解決できる力が身についてきています。その過程で得られる達成感が自己肯定感や自己有用感を高め、日々の学校生活で難しいことでも積極的に挑戦していく姿勢を生み出しています。また、学力状況調査結果からは無回答率の割合が昨年度よりも減少しており最後まであきらめずに取り組む生徒が増えています。その結果、数学は全国平均と同等、国語・英語についても「話すこと」「聞くこと」「書くこと」で全国平均と同等の結果となりました。一方で「読む能力」については、全国平均を6～7ポイント下回り課題として残りました。この先、変化の激しい社会を自立して生きていくためには、必要な情報を収集し、取捨選択する能力が必要となります。本校ではこれらの力を伸ばし、個々の学習定着を図るために、「読み・調べる」ことの意義を伝え、相互評価と意見交流を教育活動の中で実践します。自分自身がアウトプットすることで情報や考えを整理し、お互いの意見を共有することから生まれる、より深い学びを授業で展開していきます。